

アレルギー疾患用

# 学校生活管理指導表

(令和2年度改訂版)

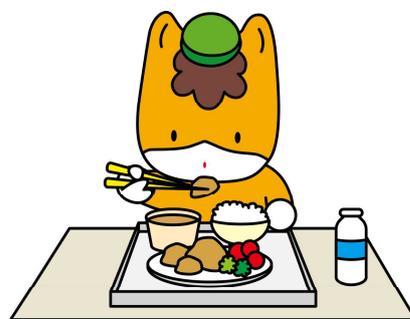
## 主治医 様

学校(園)生活において、アレルギー疾患で特別な配慮や管理が必要な子どもの健康管理を適切に行うため、裏面の「活用のしおり～主治医用～」をご覧ください。必要事項の御記入をお願いいたします。(学校管理下での管理が不要な場合は、提出する必要はありません。)

なお、症状などの状況に応じて指導内容に変更などがある場合は、再度御記入をお願いいたします。

### 【様式】

1. 気管支ぜん息
2. アトピー性皮膚炎
3. アレルギー性結膜炎
4. アレルギー性鼻炎
- 5-1. 食物アレルギー・アナフィラキシー
- 5-2. 食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応



\* 下記は学校で記入してください。

名 前							性 別	男 ・ 女
生 年 月 日	年 月 日 生まれ							
学 校(園) 名								
学 年	1	2	3	4	5	6		
組								

\* 下記は保護者が内容を確認し、サインをしてください。

学校における日常の取組及び緊急時の対応に活用するため、本票に記載された内容を学校の全教職員及び関係機関等で共有することに同意します。

保護者氏名 \_\_\_\_\_

群馬県教育委員会  
群馬県医師会

# 活用のしおり～主治医用～

## 1. 学校生活管理指導表について

本表を活用して管理を行ってきた児童生徒については、「令和2年度改訂版」の後に「平成27年度改訂版」の学校生活管理指導表を添付いたします。「平成27年度改訂版」を参考に「令和2年度改訂版」の学校生活管理指導表に御記入いただきますようお願いいたします。

## 2. 主な改訂点

### (1) 内容について

医学的な進歩を取り入れた内容に改められました。  
また、治療薬も最近の進歩を反映して、新しい薬剤が加えられました。

### (2) 「学校生活上の留意点」について

「保護者と相談し決定」という文言が、「管理必要」という文言に改められました。

### (3) 食物アレルギー・アナフィラキシーについて

「原因食品・診断根拠」という文言から、「原因食品・除去根拠」という文言に改められました。

### (4) 気管支ぜん息について

「重症度分類（発作型）」から「症状のコントロール状態」に改められました。

## 3. 記入上の注意

### 食物アレルギー

#### C. 原因食物・除去根拠

- ・診断根拠として重要なのは①明らかな症状の既往、②食物経口負荷試験陽性です。
- ・③摂取可能であるにもかかわらず、血液検査陽性だけを根拠に原因食物の除去を指示することは適切ではありません。
- ・④未摂取で除去が必要な食物がある場合のみ記入してください。

#### E. 原因食物を除去する場合に、より厳しい除去が必要なもの

- ・ここに記載されている食材は、極微量のアレルゲンが含有されている程度であり、症状誘発の原因となりにくいため、基本的に除去する必要はありません。
- ・本欄に○がついた場合には、給食対応が困難となりますので慎重に考慮してください。

### 気管支ぜん息

#### A. 症状のコントロール状態

(小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017 より)

評価項目	コントロール状態（最近1ヶ月程度）		
	良好 (全ての項目が該当)	比較的良好	不良 (いずれかの項目が該当)
軽微な症状 ※1	なし	(1 ≥ 回/月) < 1 回/週	≥ 1 回/週
明らかな急性増悪（発作） ※2	なし	なし	≥ 1 回/月
日常生活の制限	なし	なし（あっても軽微）	≥ 1 回/月
β2刺激薬の使用	なし	(1 ≥ 回/月) < 1 回/週	≥ 1 回/週

※1 軽微な症状とは、運動や大笑い、啼泣の後や起床時などに一過性に認められるが、すぐに消失する咳やぜん鳴、短時間で覚醒することのない夜間の咳き込みなど、見落とされがちな軽い症状を指す。

※2 明らかな急性増悪（発作）とは、咳き込みやぜん鳴が昼夜にわたって持続あるいは反復し、呼吸困難を伴う定型的な喘息症状を指す。

# 1 【気管支ぜん息】

(あり・なし)

〔病型・治療〕 該当するものに○印を付けてください。また、必要事項を記入してください。

<b>A. 症状のコントロール</b>	<b>B-1. 長期管理薬 (吸入)</b>	<b>B-2. 長期管理薬 (内服)</b>
1. 良好 2. 比較的良好 3. 不良	1. ステロイド吸入薬 (薬剤名 ) (投与量/日 ) 2. ステロイド吸入薬/長期間作用性吸入ベータ刺激薬配合剤 (薬剤名 ) (投与量/日 ) 3. その他 (薬剤名 ) (投与量/日 )	1. ロイコトリエン受容体拮抗薬 (薬剤名 ) 2. その他 (薬剤名 )
<b>B-3. 長期管理薬 (注射)</b>	<b>C. 発作時の対応</b>	
1. 生物学的製剤 (薬剤名 )	1. ベータ刺激薬吸入 (薬剤名 ) (投与量/日 ) 2. ベータ刺激薬内服 (薬剤名 ) (投与量/日 )	

〔学校生活上の留意点〕 該当するものに○印を付けてください。また、必要事項を記入してください。

<b>A. 運動 (体育・部活動等)</b>	<b>B. 動物との接触やホコリ等の舞う環境での活動</b>	<b>C. 宿泊を伴う校外活動</b>
1. 管理不要 2. 管理必要 ★	1. 管理不要 2. 管理必要 ★	1. 管理不要 2. 管理必要 ★
<b>D. 配慮事項や管理事項について (★印に○をつけた場合は具体的に記入してください。)</b>		
(Blank area for D)		

◇◇◇緊急時連絡先◇◇◇

保護者名前

電話番号

医療機関名 :

電話番号 :

医師名 :

印

記載日 : 令和 年 月 日

※変更ありの際は、変更内容を(空欄に)記載願います。

受診年月日	病型・治療	学校生活上の留意点
2年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
3年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
4年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
5年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
6年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		



※変更ありの際は、変更内容を(空欄に) 記載願います。

受診年月日	病型・治療	学校生活上の留意点
2年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
3年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
4年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
5年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
6年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		



※変更ありの際は、変更内容を(空欄に) 記載願います。

受診年月日	病型・治療	学校生活上の留意点
2年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
3年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
4年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
5年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		
6年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
医療機関名 医師名		

## 4 【アレルギー性鼻炎】

(あり・なし)

〔病型・治療〕 該当するものに○印を付けてください。また、必要事項を記入してください。

A. 病 型	B. 治 療
1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎 (花粉症) [主な症状の時期] 春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬	1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 (内服) 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. アレルゲン免疫療法 舌下免疫療法 (ダニ・スギ) 皮下免疫療法 (ダニ・スギ・その他 ) 4. その他 ( )

〔学校生活上の留意点〕 該当するものに○印を付けてください。また、必要事項を記入してください。

A. 屋外活動
1. 管理不要 2. 管理必要 ★
B. 配慮事項や管理事項について (★印に○を付けた場合は具体的に記入してください。)

医療機関名：

電話番号：

医 師 名：

印

記 載 日：令和      年      月      日

※変更ありの際は、変更内容を(空欄に)記載願います。

受診年月日	病型・治療	学校生活上の留意点
2年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
	医療機関名 医師名	
3年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
	医療機関名 医師名	
4年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
	医療機関名 医師名	
5年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
	医療機関名 医師名	
6年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし・変更あり(追加あり・管理不要)
	医療機関名 医師名	



※変更あり・解除の際は、変更・解除内容を（空欄に）記載願います。

受診年月日	病型・治療	学校生活上の留意点
2年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし ・ 変更あり（解除・追加あり）
医療機関名 医師名		
3年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし ・ 変更あり（解除・追加あり）
医療機関名 医師名		
4年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし ・ 変更あり（解除・追加あり）
医療機関名 医師名		
5年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし ・ 変更あり（解除・追加あり）
医療機関名 医師名		
6年生 令和 年 月 日	変更なし 変更あり	変更なし ・ 変更あり（解除・追加あり）
医療機関名 医師名		

# 食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応

群馬県

氏名: \_\_\_\_\_ 年 月 日生

緊急連絡先 ①氏名: \_\_\_\_\_ (続柄: \_\_\_\_\_) 電話番号(\_\_\_\_\_)-(\_\_\_\_\_)-(\_\_\_\_\_)  
 ②氏名: \_\_\_\_\_ (続柄: \_\_\_\_\_) 電話番号(\_\_\_\_\_)-(\_\_\_\_\_)-(\_\_\_\_\_)

主治医: \_\_\_\_\_ 印(病院名: \_\_\_\_\_)  
 記載日: 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## 【症状と対応】

皮膚



呼吸



お腹



全身



食べた時と症状が出た時間をチェック!  
 安静にする! 一人にしない!  
**症状が一つでもあれば積極的に治療しましょう!**

**の観察が大切!**

軽症	部分的な赤みや蕁麻疹、軽い痒み	→	治療: 抗ヒスタミン薬内服(_____)	
	単発の咳、くしゃみ		→	対応: <b>症状が進行、または30分以上続くようなら</b> ステロイド薬内服の上で医療機関を受診
	口の痒みや違和感、唇の軽い腫れ			
中等症	全身の赤みや蕁麻疹、強い痒み 蕁麻疹が10個以上、臉や唇が腫れ上がる	→	治療: 抗ヒスタミン薬内服(_____) ステロイド薬内服(_____)	
	鼻水、鼻づまり、咳を繰り返す、喉の痒み		→	対応: <b>ただちに医療機関を受診</b> ★嘔吐が1回だけで他症状がなく、元気であれば内服しなくてもよい ★ <b>症状が進行するようなら重症の対応を行う</b>
	1回の嘔吐や下痢、腹痛			
	元気がない			
重症	のどや胸が締めつけられる、声がかすれる 持続する強い咳き込み、犬が吠えるような咳(ケンケン)、ゼーゼーする呼吸、息苦しい	→	治療: <b>エピペン</b> を使用した上で 可能なら { 抗ヒスタミン内服(_____) ステロイド薬内服(_____) } <b>躊躇しない</b>	
	繰り返し吐き続ける、持続する強い腹痛		→	対応: <b>ただちに救急車で医療機関受診</b> <b>担架で移動</b>
	唇や爪が青白い、脈を触れにくい、不規則ぐったり、意識がもうろう、尿や便をもらす			

食物アレルギー診療ガイドライン2012に準拠

## 【エピペン®の使い方】 ※患者が注射できない場合は代わりに園・学校の職員が注射してもよい。その際、医師法など法律には抵触しない

### Step1 準備

携帯用ケースのカバーキャップを指で押し開け、注射器を取り出す。注射器を片手でしっかりと握り、もう片方の手で青色の安全キャップを外す。



### Step2 注射

大腿部の前外側に垂直になるようにし、オレンジ色のニードルカバー先端を「カチッ」と音がするまで強く押し付ける。押し付けたまま数秒間待つ。注射器を大腿部から抜き取る。



### Step3 確認

オレンジ色のニードルカバーが自動的に伸びたことをチェックし、正常に注射できたことを確認する。



平成 2 1 年 6 月 1 7 日初版発行

平成 2 4 年 3 月 1 6 日改訂版発行

平成 2 5 年 3 月 1 8 日改訂版発行

平成 2 5 年 9 月 1 1 日改訂版発行

平成 2 7 年 3 月 1 3 日改訂版発行

令和 2 年 8 月 3 1 日改訂版発行

作成者 群馬県教育委員会・群馬県医師会